

安曇野市天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」指定記念シンポジウム ～ “草原の青い星” オオルリシジミのいまとこれから～

1 趣旨

オオルリシジミは、瑠璃色の翅を持つ大型のシジミチョウで、国内にはオオルリシジミ本州亜種とオオルリシジミ九州亜種が分布しています。

オオルリシジミ本州亜種は東北地方と中部・関東地方に分布していましたが、安曇野を含む県内3か所を除いて絶滅したとされ、環境省のレッドリストでは絶滅危惧ⅠA類（CR）、長野県版レッドリスト動物編では絶滅危惧ⅠB類（EN）、安曇野市版レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）に選定されています。

オオルリシジミは草原の環境に適応しており、幼虫はマメ科のクララのみを食草とします。安曇野市では、人々がウジゴロシとして利用するためにあぜに残したクララをよりどころとし、野焼きや草刈りなど農村の暮らしと共存してきましたが、生活様式の近代化などにより激減し、平成3年（1991）に一度姿を消しました。平成6年（1994）に再発見された後は、「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」を中心に保護活動が行われ、現在は自然発生が続いています。

オオルリシジミの天然記念物指定については、再発見当時から関係者の間で検討されていましたが、注目が集まることにより乱獲されることが心配され、見送られてきました。その後、保護活動により自然発生が安定して継続するようになったこと、さらにクララの植栽活動などにより生息域が拡大しつつあることから、天然記念物指定をきっかけに、広く保護活動への関心が高まることを期待できる段階になってきました。

このような背景から、今日のシンポジウムでは、安曇野市に生息するオオルリシジミとはどんな生き物なのか、天然記念物に指定されたということはどういうことかを知っていただくとともに、これからの保存と活用について皆さんと一緒に考えたいと思います。

2 日時：令和4年6月25日（土） 午後1時30分～午後3時30分（開場：午後1時）

3 場所：豊科公民館ホール（〒399-8205 安曇野市豊科 4289-1 TEL：0263-71-2158）

4 プログラム

(1) 天然記念物指定と保存活用計画について

安曇野市教育委員会 教育部 文化課

(2) イントロダクション

講師：中村 寛志 様 信州大学 名誉教授

(3) パネルディスカッション

コーディネーター 中村 寛志 様 信州大学 名誉教授

パネリスト 那須野雅好 様 安曇野オオルリシジミ保護対策会議 代表

江田 慧子 様 関西学院大学教育学部 助教

百瀬 新治 様 安曇野市文化財保護審議会 会長

岩原の自然と文化を守り育てる会 会長

須之部 大 様 一般財団法人 公園財団

萩原 正朗 様 公益財団法人 日本自然保護協会

※午後1時30分から午後4時頃まで駐車場にてクララ等苗配布

岩原の自然と文化を守り育てる会

5 実施体制

主催：安曇野市教育委員会（事務局：教育部 文化課 文化財保護係）

共催：安曇野市

協力：公益財団法人 日本自然保護協会
安曇野オオルリシジミ保護対策会議
岩原の自然と文化を守り育てる会

後援：関西学院大学 SDGs・生物多様性研究センター

「安曇野のオオルリシジミ」保護のあゆみ

- 1991年 安曇野における最後の自然発生個体の確認
- 1994年 旧堀金村で再発見
- 1995年 「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」の発足
- 1996年 採集自粛のチラシ配布とパトロールの実施（三郷昆虫クラブ等）
終齢幼虫を取り込み人工飼育を行う
- 1999年 国営公園工事事務所が加入 国営公園内に保護区の造成が始まる
すべてのステージの人工飼育開始 得られる蛹の数が飛躍的に増える
保護区（サンクチュアリ）に蛹を放つ
- 2000年 人工飼育で600を超える蛹が確保できるようになる
保護区でオオルリシジミの乱舞が見られるようになる
マニアによる保護区周辺のクララの花穂の摘み取り（卵の採集）止まらず
- 2001年 保護区で子どもたちを対象とした観察会実施
交尾、産卵は順調だが、幼虫の数が少ない 天敵の解明が急務となる
- 2005年 信州大学農学部の中村寛志教授（当時）に調査を依頼。寄生率等の現地調査開始
- 2006年 信州大学による調査の結果、9割が天敵等により死滅していることが判明
長野県希少野生動植物保護条例の指定希少野生動植物となる
- 2009年 信州大学の継続調査の結果、最大の寄生要因がメアカタマゴバチであることが判明
保護区で試験的野焼きを行い、天敵の減少に効果のあることを実証
- 2011年 保護区全体の野焼きを実施 自然発生個体の増加を確認 以後継続実施
- 2012年 長峰山頂でオオルリシジミを確認 何者かによる安曇野産放蝶と判明
- 2013年 地元有志の「岩原自然と文化を守り育てる会」がオオルリシジミの観察会などを実施。同区内にクララを増やす活動に着手
- 2017年 烏川県営園場整備事業に伴い、クララの移植作業実施 100株以上がサンクチュアリ周辺などに植えられる
- 2022年 安曇野市天然記念物に指定される